

第3回審議会の議事概要

(1) 開催概要

名 称： 第3回伊丹市行財政審議会

日 時： 令和2年8月31日（月） 16:00 ～ 18:00

場 所： 市役所議会棟3階 議員総会室

出席者： 上村委員、成田委員、橋本委員、松尾委員、山下委員、山田委員、和田委員

議 題：① 第2回審議会の議事概要

② 政策的・投資的事業の取組方針について

③ 基金の管理方針について

④ 「将来を見据えた持続可能な行財政運営」を目指して

(2) 議事概要

議題① 省略

議題② 政策的・投資的事業の取組方針について

【意見】

- ・実質公債費比率、将来負担比率について、公共施設マネジメントの取り組みが進まなければ数値がすぐに上昇してしまうことを共有しておく必要がある。
- ・国からの時限的な財源措置を前提とするのではなく、恒常的な財源に基づいてプランを策定することが重要である。
- ・事務事業について、類似事業がどれほどあるかを検証し、スクラップアンドビルドの徹底、IT技術の採用などにより、PDCAを回しながら事務事業の総数を減らし効率化していく必要がある。
- ・事務事業の数を減らすことは大事だが、市民サービスの充実も重要である。
- ・行政評価において、事業費の額が変わっていてもクオリティが上がった事業を評価することが大事。
- ・PDCAサイクルの中に、市民のニーズを反映させるべきである。
- ・行財政運営の課題や考え方について広報する場合は、文字だけでなくイラスト等を取り入れて説明することで市民の理解が進みやすい。

議題③ 基金の管理方針について

【意見】

- ・基金残高について、油断はできないが安心できる金額である。
- ・公共施設マネジメントの進捗状況によっては、財政状況が変わりかねないので、施設の整理・統合をしていくことがとても重要である。
- ・30年間を見通すことはなかなか困難であるなか、10年ごとに区切って説明することは市民にとって分かりやすく良いと思う。
- ・30年間のうち後半20年間は公債費負担が大きく厳しい財政運営が予想される。
- ・過度な基金の積立は、市民の税負担がストックされて、公共サービスとして返ってきていないということになり、現代世代は負担のみを被ることになるので適切ではない。
- ・基金がしっかり積み立てられているということで市民としては安心している。災害や新型コロナウイルスなどの突発的な事態に備えて、今後も引き続き積み立てを継続し市民の暮らしを支えてほしい。

議題④ 「将来を見据えた持続可能な行財政運営」を目指して

【意見】

- ・公共施設マネジメントで約200億円の削減を見込んでいるが、この比重が大きく、取り組みがうまく進まなければ毎年の歳出が増大し、公共サービスの水準を落とさざるを得なくなる。
- ・市が出資している外郭団体について、株主として安定的な経営がなされているか等をチェックしていかなければならない。もし出資に見合った効果が得られていない場合は、出資を見直すことも検討していくべきである。
- ・事務事業の見直しについて、「廃止」という表現より「集約」や「再編」、「統廃合」という表現が適切ではないか。
- ・取組効果額の比重が大きい公共施設マネジメントの進捗が遅れた場合に、効率的な行政経営や公営企業等の経営改革による取り組みで補完していく必要がある。
- ・取組後になお残る170億円の収支不足の解消を注視すべき。
- ・新庁舎建て替え、病院統廃合、待機児童解消など他市に比べ計画的に行っていると思う。
- ・不確定要素が大きい中での計画策定となるが、市職員も危機感を持つ必要がある。